

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：15301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25590187

研究課題名(和文) 在日留学生を対象とした異文化間食育の開発 - 健康教育と異文化間教育の学際的融合

研究課題名(英文) Developing cross-cultural eating education for interdisciplinary students in Japan: Interdisciplinary fusion of health education and inter-cultural education

研究代表者

田中 共子 (TANAKA, Tomoko)

岡山大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：40227153

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：在日外国人留学生の食行動、食と健康に関する認知、そして異文化滞在者としての食の文化受容、食の異文化適応、食文化の自然学習、食習慣の変容について、実証的研究を進めた。在日留学生を対象とした異文化間食育の欠落とその必要性を指摘し、国内向け食育との異同、異文化滞在者の食の健康教育に求められる独特の要素と配慮と倫理的問題、社会文化的適応の中での食の位置づけについて検討した。異文化間食育の構成について吟味し、食の健康教育に求められる要素と基本の枠組みについて提案した。

研究成果の概要(英文)：Substantially studies were conducted. The dietary behavior of the international students in Japan, cognition about meal and health, dietary acculturation as sojourners, cross-cultural dietary adaptation, nature learning of the food culture, the transformation of dietary habits, were investigated.

研究分野：健康心理学

キーワード：異文化適応 在日留学生 異文化間食育 健康教育 異文化間教育 文化受容 食行動 異文化滞在者

## 1. 研究開始当初の背景

**(1)健康心理学と文化** 異文化滞在者は健康のハイリスク集団とされるが、病気になれば現地医療を頼るだけで、治療以前の健康教育は乏しい。健康心理士試験の教科書「健康心理学基礎シリーズ」(日本健康心理学会編、全4巻、実務教育出版)に異文化滞在者の頁はなく、他国と日本の研究が混在して紹介されるのみで、暗黙裏に健康はユニバーサルなものとみられている。だが2012年度日本健康心理学会大会で、代表者(田中)・分担者(高浜)らはシンポジウム「日本と近隣国の健康の連続性:cross-cultural health psychologyの示唆」を企画し、健康心理学への文化的考察を呼びかけた。現在は健康への文化の影響に気づく黎明期にある。

**(2)食と文化** 食は健康の基盤だが、文化移行者はその食の変容から健康問題を生じるとの指摘がある。ハワイの日系人は日本型から米国型の食生活になってCHD(冠状動脈心疾患)が増した(Benfante,1992)。これは文化受容の負の側面といえる。一時滞在者でも、米国のライフスタイルを取り入れたアラブ人留学生は体重が増え(Pan,1999)、在アイルランド留学生は野菜不足を背景に身体の不調を生じた(後藤ら,2003)。異文化環境でも健康を意識した食のマネジメントが望まれるが、異文化滞在者は一般の健康教育から外れがちで個人任せが実情である。日本国内では、安友・西尾(2008)が栄養的観点、丸井(1995)が疫学的観点から留学生の食の実態報告をした程度で、教育理論や介入実践の研究はなく、異文化間教育の文脈も入っていない。

**(3)経緯** 我々は異文化滞在者の異文化適応研究を手がけ、社会文化的適応の測定や、認知行動的な対人行動の文化学習を試み

る異文化間教育で成果を挙げてきた(田中,2000ほか)。在日留学生の食の困難や乱れには気づいたが、食知識や問題意識は希薄で健康教育もないと分かった。

**発想** 日本人向け食育を単純に適用しても合わないが、何をどうすれば彼ら向けの食育になるのか。健康心理士と看護師・保健師と留学生教育者のチームで探り、時代のニーズに応える道を探したい。

## 2. 研究の目的

国際的流動性の高まる時代にあって、異文化間心理学と健康心理学の接点で、異文化間教育と健康教育を融合させて、食のマネジメントに異文化滞在者の特性を組み込む「**異文化間食育**」の開拓に挑戦する。

従来の食育は国内向けに営まれており、複雑な適応過程にある異文化滞在者の在日留学生への適用は難しかった。その食は個人任せになり教育も空白であった。だが**異質な社会文化的環境下でも、健康のセルフマネジメントができることは、グローバル時代における重要な能力と考えられる**。

彼らの独特な健康問題の構造を分析し、文化受容の観点を加味した健康教育の理論化可能性を探り、文化の要素を組み込んだ新たな枠組みについて提案していきたい。

## 3. 研究の方法

探索的調査によって初期的検討を行う。横断・縦断的研究、半構造化面接、外国人留学生と日本人学生への総合的質問紙調査によって、理論的検討を行う。異文化間食育プログラムへの示唆を総括する。

## 4. 研究成果

在日外国人留学生の食行動、食と健康に関する認知、そして異文化滞在者としての食の文化受容、食の異文化適応、食文化の自然学習、食習慣の変容について、実証的研究を進めた。在日留学生を対象とした異文化間食育

の欠落とその必要性を指摘し、国内向け食育との異同、異文化滞在者の食の健康教育に求められる独特の要素と配慮と倫理的問題、社会文化的適応の中での食の位置づけについて検討した。異文化間食育の構成について吟味し、食の健康教育に求められる要素と基本の枠組みについて提案した。

日本の留学生教育の中では、留学生の課題達成にとって重要であるにも関わらず、教育的には空白状態であったことが認識され、興味深く受け止められた。日本の健康教育の中では、異文化滞在者は例外的な存在とみなされて対象になりにくかったが、国際化時代にあって日本人以外への食の健康教育という発想は、新鮮に受け止められた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

1) 中野祥子・田中共子 2016.3 ムスリム文化学習の教材構成に向けた予備調査：日本人学生を対象とした文化アシミレーター試作版への反応 文化共生学研究15,131-154 (査読あり)

2) Kaori Hatanaka and Tomoko Tanaka 2015 Case study of dietary habits and acculturation in Chinese international students in Japan: Problems and necessity of intercultural dietary education. International Journal of Health and Life-Sciences, Special Issue Vol.1 Issue 1, 238-252. (査読あり)

3) 田中共子 2015 在仏日本人留学生における食の異文化適応 - 送り出し版異文化間食育への示唆 - 留学生教育、第20号、67-74 (査読あり)

4) 中野祥子・田中共子 2015 日本人学生を対象としたムスリム文化アシミレーターを用

いた異文化間教育の試み 留学生教育、第20号、83-92. (査読あり)

5) 田中共子・高濱愛 2015.3.26 韓国の学生の食生活に関する研究ノート - 食のパターンと問題の認識 - 文化共生学研究 14,109-117 (査読なし)

6) 中野祥子・奥西有理・田中共子 2015.3 在日ムスリム留学生の社会生活上の困難 岡山大学社会文化科学研究科紀要39,137-151 (査読あり)

7) 田中共子・高濱愛 2014.3 日本人学生における食の意識と行動 - 留学生を対象とした異文化間食育の開発に向けた対比的集団として - 文化共生学研究13,115-121 (査読なし)

8) 高濱愛・田中共子 2014.3 在日メキシコ人留学生の食生活の変遷に関する事例的研究 - 5名の渡航前から現在に至る詳細から食育への示唆を探る - 人文・自然研究8(一橋大学教育研究開発センター)190-205(査読なし)

9) 高濱愛・田中共子 2013.7 留学生の食生活と健康 - 留学支援としての食育という課題 - ウェブマガジン「留学交流」2013年7月号 JASSO (独立行政法人日本学生支援機構) (<http://www.jasso.go.jp/about/webmagazine201307.html>) (査読あり)

[学会発表](計13件)

1) Kaori Hatanaka and Tomoko Tanaka 2016.3.31-4.3(4.2発表) Comparison of dietary behaviors and acculturation of Korean international and Japanese students in Japan. The Asian Conference on Psychology and the Behavioral Sciences 2016, Art Center of Kobe, Kobe, Japan.

2) Kaori Hatanaka and Tomoko Tanaka 2015.12.27-28 Dietary habits and acculturation of Chinese international

students in Japan: An implication for intercultural dietary education. 9th International Conference on Healthcare and Life Science Research, Linton University College, Kuala Lumpur, Malaysia

3) Tomoko Tanaka, Moe Ozaki, Yoshimi Hyodo and Mitsuhiro Tojo 2015.10.18-23 Eating cognitions and behaviors in Japanese students before, during, and after international study: Implication for cross-cultural eating education from the perspective of the longitudinal health education for sojourners. 21th Annual Qualitative Health Research Conference, Toronto, Ontario, Canada

4) 尾崎萌・田中共子 2015.9.5-6(5) 日本人学生の留学前・中・後にみる食の困難・対処と栄養の評価 - 環境移行者を対象とした異文化間食育の構成要素を探る - 日本健康心理学会第28回大会、桜美林大学

5) 中野祥子・田中共子 2015.6.6-7(6) 日本人留学生を対象としたムスリム文化アシミレーターの試作 異文化間教育学会第36回大会、千葉大学

6) 田中共子 2015.6.6-7(6) 在日日本人留学生の食の異文化適応 - 送り出し版異文化間食育への示唆 - 異文化間教育学会第36回大会、千葉大学

7) Sachiko Nakano, Tomoko Tanaka and Ai Takahama 2014 Food acculturation in Muslim Students in Japan. The 2nd Conference on Psychology and Health, Beijing, China, 2014, 11, 28-30.

8) Tomoko Tanaka and Ai Takahama 2014.7.10 Symposium ICAP2014-SP1643 : Health Psychology "Positive Health and the culture of medicine: From

crisis to a flourishing profession and population". Recognition of "eating gaps" among international students in Japan: Implications for cross-cultural eating education from a health psychological perspective. 28th International Congress of Applied Psychology, Palais des congres de Paris, Paris, France, 8-13, July, 2014

9) 中野祥子・田中共子・高濱愛 2014.6.8 欧米出身在日留学生の食における文化変容に関する探索的研究 異文化間教育学会第35回大会 於同志社女子大学

10) 田中共子・高濱愛 2013.10.19 在日メキシコ人留学生の食生活の変遷に関する事例的研究 多文化関係学会 2013年度第12回年次大会

11) 田中共子・高濱愛 2013.9.15 異文化滞在者の食と社会文化的適応 - 在日留学生にみられる食の社会性 - 日本応用心理学会第80回記念大会

12) 田中共子・高濱愛 2013.9.8 異文化滞在中における食の動態と問題の認識 - 在日留学生の食生活調査による異文化間食育への示唆 - 日本健康心理学会第26回大会 (於北星学園大学)

13) 田中共子・高濱愛 2013.6.9 在日韓国人留学生における食の健康行動 - 文化滞在者の食の多機能性に注目して - 異文化間教育学会第34回大会 (於同志社女子大学)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

田中 共子(TANAKA Tomoko) 岡山大学・社会文化科学研究科・教授 40227153

### (2) 研究分担者

兵藤 好美(HYODO Yoshimi) 岡山大学・保健学研究科・准教授 90151555

高濱 愛(TAKAHAMA Ai) 横浜国立大学・国際社会科学研究院・講師 90444645 (H27.1

まで)